

横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校

2025 年度学校関係者評価会議事録

日時	2025 年 8 月 28 日(金) 14:00~15:00	
場所	横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校 3階 セミナー室	
出席者	学校関係者評価委員	中村 ふじ 様 (Coach-F 代表)
		真野 誠 様 (一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会 事務局長)
		神崎 昭悟 様 (株式会社カケハシ)
		小林 桂子 様 (野村不動産ライフ&スポーツ株式会社人事部人事課長)
		宮辺 薫 様 (株式会社 I&S BBDO アカウントマネージャー)
		久保田 弘枝 様 (保護者代表)
	本校教職員	松尾 信 (横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校 グループ長)
		知久 末衣 (教務グループリーダー)
		平塚 智文 (教務チーム: 医療 IT 科 学科まとめ)
		秋山 貴志 (教務チーム: 医療事務科 学科まとめ)
		岡部 華子 (教務チーム: スポーツ系 学科まとめ)
		小野山 隼人 (教務チーム: 医療事務科・スポーツ系学科) ※議事録担当
	欠席者	学校関係者評価委員
泉 重樹 様 (法政大学スポーツ健康学部/スポーツ健康学研究科教授 ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)		
加藤 基 様 (帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科講師 ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)		
資料	2025 年度 学校関係者評価会議 実施要領 当日説明用スライド資料 自己点検・評価表 (ISO 29990 対応版 Ver.3.0)	

<議論の要旨>

1. グループ長挨拶（松尾）

- ・スポーツ系学科が開校して2年目となった。昨年度は学生募集が大きな課題としてあったが、スポーツ系学科を中心に募集状況は回復傾向にある。しかし、医療事務分野そのものが厳しい状況にあることは変わらない。
- ・みなとみらいに新校舎を建設予定。詳細は法人本部を中心に決定していくが、岩崎学園として新たな取り組みを行っていく。

2. 2024年度 教務運営状況（知久）

【2024年度医療事務科 事業目標-実績】

出席率	: 目標	90%以上
退学率	: 目標	5.0%以下
就職率	: 目標	96%以上
教員アンケートスコア	: 目標	4.0以上
資格取得率	: 目標	100%

- ・就職率が大きく下がっているのは、就労支援を受ける学生や病気で就労困難な学生を数値に含めないよう、算出方法を変更したためである。（松尾）

3. 2024年度 募集状況(松尾)

入学者数：目標 150名（医療事務 80名、スポーツ 70名）、HIM進学希望者数 20%以上

4. 自己点検・評価表 評価項目の達成及び取組状況

詳細は資料 自己点検・評価表（ISO 29990 対応版 Ver.3.0）を参照。

5. 2025年度目標と取り組み

【2025年度 学校方針】

- ・一人ひとりの力を大切にしつつ、チーム全体で協力し未来を創る
- ・就職の実現、夢の実現をサポート、資格取得の徹底

【2025年度 教務運営目標】

- ・出席率 : 90%以上
- ・退学率 : 5.0%（10名まで）
- ・就職（進路）確定率 : 96%以上
- ・教員アンケートスコア : 4.0以上
- ・資格取得率 : 100%
- ・学科別目標資格取得率 : 前年度+10%以上

6. 意見交換

(中村様)

- ・スポーツ系の学生たちはどのような就職先を希望するのか？

→学科によって異なるが、スポーツチーム、フィットネス企業、ジム、スポーツショップなどを希望する学生が多い。

スポーツチームで働きたいとって学校説明を聞きに来る高校生は多いが、新卒でスポーツチームに就職するのは難しいことはしっかりと伝えている。(松尾)

→スポーツチームへの就職では、AT を取得していることが前提で、鍼灸・柔道整復師を取得求められるケースが多い。周辺の学校と連携し、資格が取得できる仕組みを作り、学生の目標に合わせて学べる環境を整えてほしい。(中村様)

- ・スポーツに関する仕事に就職を希望する高校生は多くいるが、具体的な職種は思い浮かぶ生徒は少ない。どのようなことが仕事になるのかを知れる機会を提供できるといいと思う。

また、在校生にも実習やインターンシップの機会を充分に提供してもらいたい。(中村様)

→各学科、プロスポーツチームや企業等とのインターンシップは充実している。(松尾)

(真野様)

- ・昨年度、就職率の目標が未達成であった要因分析はできているか？

→就職しなかった学生については、一人ひとり原因を把握できている。主として、持病や精神的な問題、就労支援を受けるため就職を見送るといったものが挙げられる。

昨年度に関しては、就業前研修で精神的に苦しくなったり、職場環境に馴染めなかったりという理由で内定を辞退する学生が数名いた。(秋山)

→そういった「仕方のない理由」であれば就職率を記載する際に注釈でなぜこの数字になったかを記載する、もしくは就職率としてカウントしなくてもいいのではないかと。(真野様)

- ・自己点検表を見ると、卒業生から学校の魅力をヒアリングはできているか？

→職員の異動や新入職員が多い関係で卒業生へのヒアリングはやり切れていない部分がある。在籍年数が長い職員と連携し、卒業生との関係強化に努める。(松尾)

(神崎様)

- ・病院は職場の環境、教育が古い体質であることが多い。そう考えると、病院に就職するよりも、一般企業に就職したいと考える学生が増えると思う。貴校は医療事務の学校であるが、病院、薬局、一般企業など、幅広い就職実績があることはアピール材料になると思う。

→医療事務は必ず病院就職になるわけではないと高校生、在校生に伝えるようにしている。

保護者は大学病院＝大企業というイメージを持っている方が多い印象。(秋山)

- ・医療分野とスポーツ分野は親和性がある分野なので、同じ校舎にあることはとてもいいこと。

医療、スポーツを学んでいる学生が交流できるのはアピールポイントになるのでは。

- ・相互履修まではいかなくても、他学科の学生とコミュニケーションを取れる場を設けるだけでも学びになるのではないかと。例えば、医療事務科の学生と看護校の学生が交流することで、医療事務、看護師を目指す人はこういったことを考えるのだなといった気付きを得られるのではないかと。

(久保田様)

- ・保護者としては大学病院に就職してもらおうと安心。そこで社会人として鍛えられ、どの場所でも通用するような力を身に付けてほしい。
- ・スポーツ系学科の学生が増え、学校に活気があるようで安心した。医療事務科とスポーツ系学科の交流を深め、楽しい学生生活を送ってもらえればと思う。

(宮辺様)

- ・昨今の健康ブームでスポーツを行う一般の方が増えてきたが、そのような対象者にフォーカスを当てた実習は組んでいるのか？
- 現時点でスポーツチームや近隣の高校との実習で学校（スポウエル）の施設を使用することが多く、施設の空きがない状況と、そもそもご指摘いただいた対象者の方々との接点が少なく、実施できていないのが実情である。今後の課題としていきたい。（松尾）

以上